

2026年4月8日(水)

老球の細道916

### 新年度、職場や上司が変わる、コーチが変わる、選手も変わる、人生が変わる

会津バスケットボール協会 室井 冨 仁

誰が言ったか忘れたが「会うは別れの始まりなり」と。人との出会いは永遠とはいかず、残念ながら最後には必ず別れが訪れる。反対に、別れは新しい出会いの始まりでもある。

孫たちの新学期がスタートした。二人とも新しい担任と出会い、新しいルームメイトとの出会いにより、帰宅してからの学校の色々な話題に話がはずむ。爺のほうも通院している病院の担当医が東京へ転勤したために新たな担当医が変わった。前任のH先生は40代の血気盛んな名医であり、常に私の質問にも顔を見ながら適確に答えてくれた。また、どんなに忙しくても、1日2回は病室に来て様子を聞いたり、バスケットの話などして、私の不安感を紛らわしてくれた。ドクターとしては、前会津バスケット協会会長の松井遵一郎先生に次ぐ信頼できる名医であった。残念であるが、別れは人生の理であるために仕方がない。これからは新しい担当医の先生を信頼しながらがんと闘っていくしかない。

新年度はスポーツの世界でも変化がある。特に監督やチームなどが変わると色々な影響を与えられる。先日、朝日新聞に元サッカー日本代表の近藤直也選手の話が掲載されていた。

【2009年5月の試合で前半だけで交代を告げられると、ベンチに戻らず、走りに行きました。監督を批判するつもりはありませんでしたが、2週間謹慎に。明けた後もベンチに戻れませんでした。ところがその年の7月、転機が訪れます。チームの成績不振により監督が交代になったのです。新監督のもとで初戦から起用されると、そのまま定位置をつかみました。11年にはJ1で優勝し、個人としても日本代表に選ばれました。私自身が短期間で別人になったわけではありません。環境が合った瞬間、力が一気に表へ出せるようになったのです。どんな社会でも環境次第で輝きを放つ人はいるはずです】

新年度からの新しい上司(監督)、職場(同僚、チームメート)は、先入観を持たずにフラットな評価をしてくれたり、力を高め合う存在になりうることもある。そのためには、かつて他責思考であった近藤選手は、日頃からの準備が欠かせないという。

【「自分に矢印を向けよう」と思い直し、試合に出られない間も練習に全力で向き合い続けた結果、監督交代というチャンスをもにすることができました。他人ではなく「自分」に集中していれば、きっと評価してくれる人は現れる。私はそう信じています】

最後に、新しい環境に慣れるために「『いちねんせい』で臨む」という新聞投稿が朝日新聞に掲載されていたので参考まで。

「い」・・・いの一番に誰にでもあいさつをする。慣れたら名前であいさつをする。

「ち」・・・ちこくはしない。時は金なり、信頼なり。

「ねん」・・・ねんれいで人を見ない。年下からも教わる。そこでは新人だから。

「せ」・・・せいそうを心がける。終わりにごみを集め机を拭き、皆から喜ばれる。

「い」・・・いしの上にも3年。最初は3週間、3か月、1年、3年と積み重ねる。